

問題 1-4 次の文章を読んで、後の問にこたえなさい。

学生時代、エツ子先生のレッスンを私は最初少し変わっているように思えた。

指番号や手の使い方などのテクニック的な指導はほとんどないし、音楽的にも「ここをもっとこうしたら？」というような提案もあまりない。言ってくれることはというと「この付近で盛り上げようとしているけど、どここの辺りを頂点だと思って弾いているの？」という感じ。

それに対して私は「このあたりです。なのでここからクレッシェンドをかけていつていっているつもりですが」と答えると、それに対してエツ子先生は「なら、クレッシェンドをかけるのが早過ぎじゃないかしら。あなたの描こうとしているクレッシェンド曲線と、実際の演奏のクレッシェンド曲線がズレているんじゃないかしら」という具合に助言をくださる。ア 私がやろうと思っていることと、私自身の演奏が実際には少し違うので、それを気づかせてくれるのがエツ子先生のレッスンなのだ。

実はエツ子先生は私にとっては学生時代で二人目のピアノ科の教授だった。最初についたヨシダ先生はこの業界では知名度も権威もあるような有名教授ではあったが、レッスン曲は普段はバッハとベートーヴェンのみだし、レッスンのたびにケンカになり私もストレスがたまる一方だった。そんな話を友人にすると、友人が師事しているエツ子先生を紹介してくれたのだった。

エツ子先生になってから、普段の練習でも定期実技試験の選曲でも、私は好きな曲をイメージどおりに弾けるようになった。バロックが課題でもスカルラッティを弾けるし、古典だとハイドンのソナタを選ぶこともできた。ロマンはエツ子先生がおすすめてくるシューマンのソナタ二番を弾いた。これちょっと自分には合わない感じがしたが、それでも勉強にはなった。近現代が試験範囲だとドビュッシーやラヴェルなどからエツ子先生と相談して私のテクニックと音楽性に合っている選曲ができた。「喜びの島」も「グープランの墓」も難しい曲だが、自分のやりたい演奏にエツ子先生はうまく導いてくれた。

ある日学食で、エツ子先生を紹介してくれた友人を含めた四人ほどランチをしていた時、次の実技試験も来月にせまっていたのでイ にレッスンの話になった。その時友人が放ったのは、

「細かいからね、うちのエツ子先生のレッスンは。指づかいもほぼ全部の箇所チェックが入るし、腕の持ち上げ方や下ろし方などが大事な箇所は念入りにやるんだよね。楽譜の強弱もできているか全部チェックだよ。まあ怒ったりしないからいいけどね」

私はこの話を聞いて、唐揚げをつかんだ箸が止まってしまった。(まさか・・・エツ子先生が指番号や強弱をほぼ全部チェックするなんて・・・これはいったいどういうことだ・・・)

この疑問は数日後の私のレッスン前に解決した。その日は日程変更なのか前の学生のレッスンがまだ続いていたので、私はレッスン室内で見学しながら待機していた。その学生のレッスンでエツ子先生からは「そこはもっと強く出てもいいんじゃない？その後にシユンって小さくなるのがかっこいいと思うわ」とか「そこは急がない方がいいかもね」などと表現の指示がいろいろと飛ぶ。でも指番号やテクニックの指示はほとんどない・・・。

そういうことか！と私は納得した。エツ子先生は生徒に合わせてレッスン内容を変えているのだ。学生それぞれのテクニックのタイプや習熟度、音楽性、理解度なども考慮して、指導内容をうまく調整しているの

だろう。それは一流のピアノ科教授なら当然のことなのだろうが、まだ学生だった私には思いもつかない新鮮なことだった。

現在、教えることを仕事としている私は、この時のことをたまに思い出す。そして、生徒に合わせて指導することの難しさを日々痛感しつつ、エツ子先生の指導力にあらためて感心するのだった。

(威壇 杏「秀逸なゼクエンツ」より)

問一 次の選択肢のうち、本文と合っていないものはどれか。

- 1 エツ子先生のレッスンは、指づかいなどの指示が細かいことがある。
- 2 エツ子先生のレッスンは、音楽的表現よりもテクニクに重点を置いている。
- 3 エツ子先生のレッスンは、細かい指示が少ないこともある。
- 4 エツ子先生のレッスンは、学生それぞれに合わせている。

問二 この文章で筆者の主張は次の選択肢のうちどれか。

- 1 ピアノのレッスンでは細かい指導をするよりも、生徒の自主性を重んじる方が良い。
- 2 生徒それぞれのタイプに合わせた指導をしていたエツ子先生はなかなか凄いと思う。
- 3 エツ子先生のおかがで、弾きたい曲をイメージどおりに弾ける充実した学生時代になった。
- 4 権威や知名度のある先生よりも、学生のことを考えてくれる先生の方が良い。

問三 空欄アとイに入る言葉を選べ。

ア

- (1) つまり
- (2) しかし
- (3) たとえば
- (4) そして

イ

- (1) 道徳的に
- (2) 突然に
- (3) 偶発的に
- (4) 必然的に